

防災マップを避難に役立てる

風水害から身を守るためには、まず2022年5月に市が配布した**防災マップ**を確認することから始めましょう。

自宅周辺の「浸水想定」や「土砂災害警戒区域」、更には「堤防が決壊した場合の家屋倒壊危険区域」などを確かめ、いざという時に、自宅に留まった方が危険性が低いのか、市が指定した避難場所等に避難した方が危険性が低いのか等を平時にしっかりと検討することが必要です。自分の命を守るのは自分です。

豊岡市防災マップの検索 〔市HP〕⇒〔災害・防災〕⇒〔防災〕⇒〔防災マップ〕

風水害に備え準備すること

(1) 防災マップの確認

まず、自分の住んでいる家や地域の危険度を防災マップで確認する。
そして、①自宅の2階以上に退避するのか、②隣近所に避難させてもらうのか、③指定された避難場所に避難するのか等を予め決めておく。

(2) 避難先までの避難路の確認

避難先が決まれば、そこに至る経路上に危険な箇所はないかを確認する。
また、どのタイミングで避難するのかを地域で決めておく。

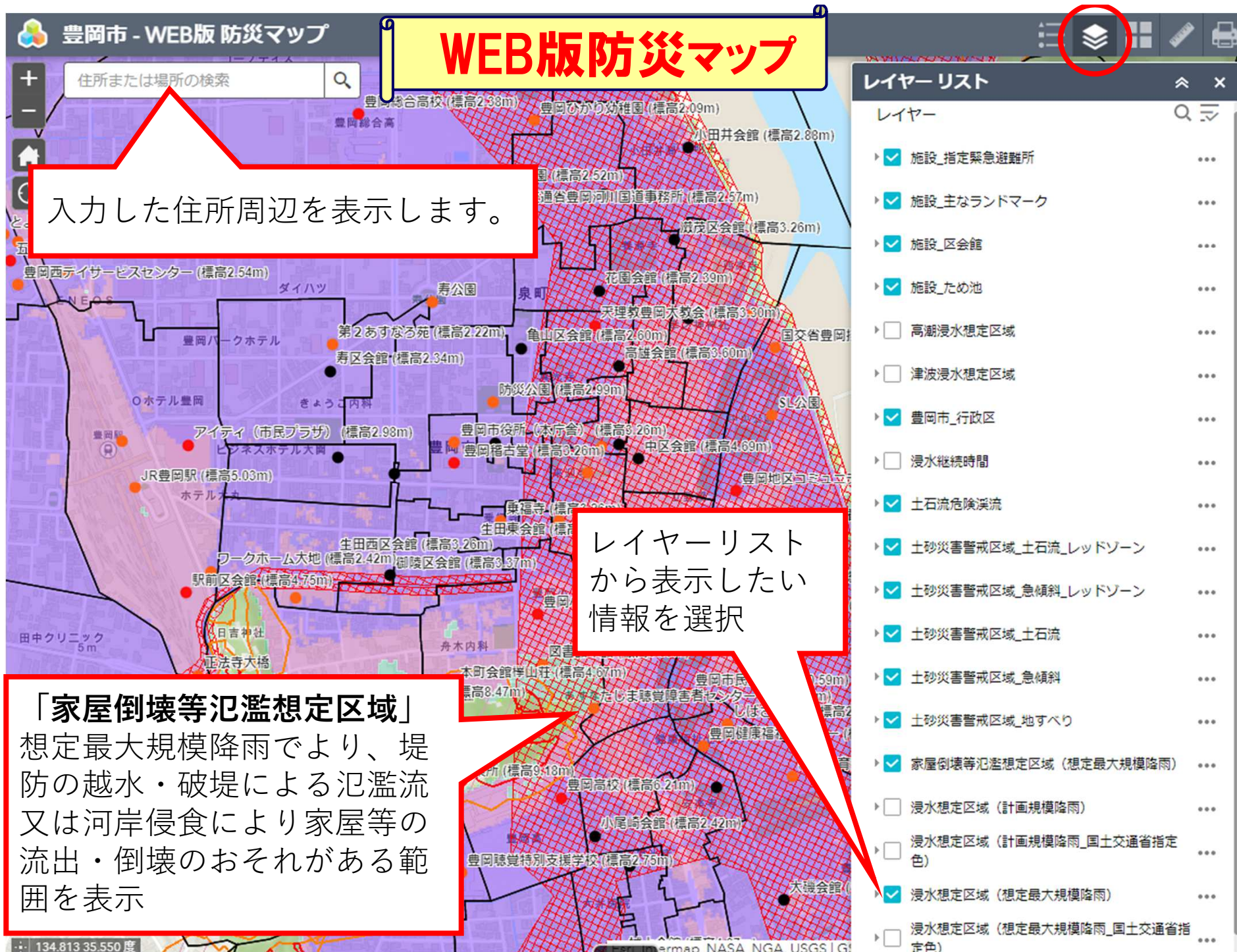
(3) 食料、水等の備蓄

生活するための長期避難では、市が水・食料の提供を行うが、危険を回避するための一時避難では、水・食料の提供は行わない。最低でも1日分の水・食料や防寒着は自ら避難所に持参するよう準備しておく。
また、家庭内には1週間分程度の水・食料を備蓄しておく。

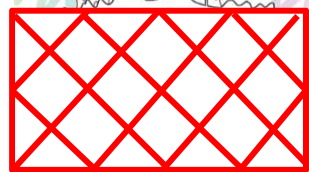
(4) 防災訓練の実施

避難先が遠い場合は、バラバラでの避難は行わない。地域内で一緒に避難できるようグループを決め、市の統一訓練日に避難所まで歩いてみる。

区分	マップの特徴
作成区分	359の集落ごと及び29のコミュニティ単位でマップを作成した。
大きさ	A3サイズなのでダウンロードや複写が容易である。
航空写真	航空写真を使用しているので、臨場感がある。
縮尺	縮尺が大きいので、自宅の位置などが確認しやすくなった。
気象の想定	1／100確率（計画規模）降雨を想定して、浸水深を想定している。コミュニティ単位マップは1/100確率及び1/1000確率降雨で作成。
土砂災害の表示	土砂災害警戒区域を網羅しているので、危険範囲が明確になった。
土砂災害特別警戒区域の表示	土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じる恐れのある区域を明示。
WEB版防災マップ	地図の拡大・縮小、住所検索、災害想定の表示・非表示や距離の計測などが可能。計画規模降雨（百年に一度の大雨）と想定最大規模降雨（千年に一度の大雨）の浸水想定区域の表示の切り替えが可能。
家屋倒壊等氾濫想定区域	1/1000確率（想定最大規模）堤防が決壊した場合に家屋倒壊の危険性のある区域はWEB版防災マップで確認できる。
活用の手引き	マップを活用しやすいように手引きを作成した。



「家屋倒壊等氾濫想定区域」



この表示の範囲は、仮に堤防が決壊したら左の写真のように木造家屋が流出もしくは倒壊する危険性が高いので、指定緊急避難場所への避難を推奨する。

堤防決壊により流出した住宅（出石町鳥居）



堤防決壊現場航空写真
（出石町鳥居）



防災マップ（鳥居）



防災マップの凡例の解説

地図の見かた

—	行政区界
—	行政区界(対象)
●	指定緊急避難場所
●	区会館
●	主なランドマーク

浸水のおそれのある区域

■	5m以上	(2階水没)	
■	3m～5m未満	(2階浸水)	
■	0.5m～3m未満	(1階床上浸水)	
■	0.5m未満	(1階床下浸水)	

この凡例は、100年に一度の大雨で堤防が決壊した場合に、最大どれくらいの深さまで浸水するのかを表示

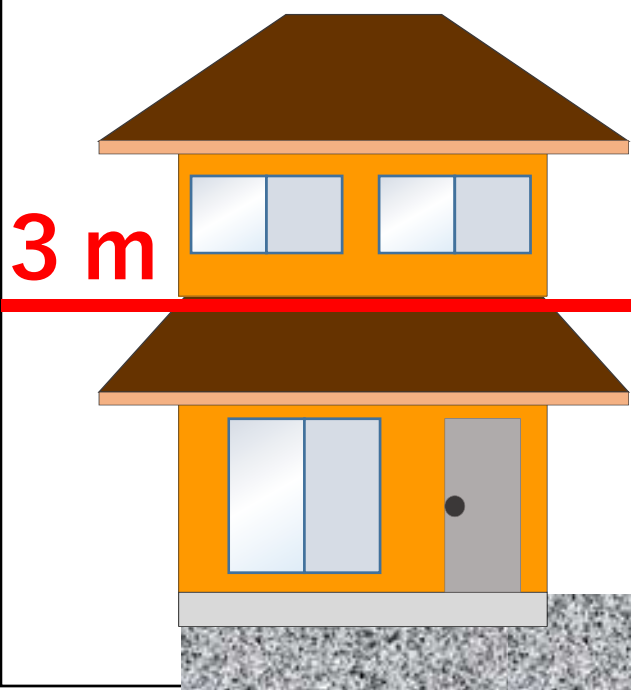
土砂災害のおそれがある区域

→	土石流危険渓流
▨	土砂災害警戒区域(土石流)
□	土砂災害特別警戒区域(土石流)
▨	土砂災害警戒区域(急傾斜)
□	土砂災害特別警戒区域(急傾斜)
▨	土砂災害警戒区域(地すべり)

想定浸水深に対する避難の目安

◆ 防災マップに示された最大浸水深の持つ意味

浸水深と家屋の関係



5 m以上

- ・ 2階建て家屋が完全に水没する
- ・ 取り残された場合、生命の危機
- ・ 指定緊急避難場所への避難を推奨

**3 m～
5 m未満**

- ・ 建物の2階が床上浸水する
- ・ 指定緊急避難場所への避難を推奨

**0.5m～
3 m未満**

- ・ 建物の1階が床上浸水する
- ・ 2階以上への退避で命を守る

0.5m未満

- ・ 建物の1階が床下浸水する

防災マップの凡例の解説

地図の見かた

—	行政区界
—	行政区界(対象)
●	指定緊急避難場所
●	区会館
●	主なランドマーク

浸水のおそれのある区域

■	5m以上	(2階水没)
■	3m～5m未満	(2階浸水)
■	0.5m～3m未満	(1階床上浸水)
■	0.5m未満	(1階床下浸水)



この凡例は、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）の影響範囲を表示。表示された範囲まで土砂が到達する可能性がある。

土砂災害のおそれがある区域

→	土石流危険渓流
▨	土砂災害警戒区域(土石流)
□	土砂災害特別警戒区域(土石流)
▨	土砂災害警戒区域(急傾斜)
□	土砂災害特別警戒区域(急傾斜)
▨	土砂災害警戒区域(地すべり)

但東町天谷



土砂災害警戒区域

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

土砂災害警戒区域に居住の場合は、指定緊急避難場所（**最善**）もしくは山の斜面から離れた住宅へのご近所避難（**次善**）を推奨する。

土砂災害で被災された人10人の内9人は1階で被災されている。最低でも住宅2階の山とは反対側の部屋（**三善**）で過ごすだけで、被災リスクは1/10に下がる。

但東町小坂



凡例の見本

土砂災害警戒区域
(急傾斜) の表示



防災マップの凡例の解説

地図の見かた

—	行政区界
—	行政区界(対象)
●	指定緊急避難場所
●	区会館
●	主なランドマーク

浸水のおそれのある区域

■	5m以上	(2階水没)
■	3m～5m未満	(2階浸水)
■	0.5m～3m未満	(1階床上浸水)
■	0.5m未満	(1階床下浸水)



この凡例は、土石流の影響範囲を表示。表示された範囲まで土砂が到達する可能性がある。

土砂災害のおそれがある区域

→	土石流危険渓流
■	土砂災害警戒区域(土石流)
■	土砂災害特別警戒区域(土石流)
■	土砂災害警戒区域(急傾斜)
■	土砂災害特別警戒区域(急傾斜)
■	土砂災害警戒区域(地すべり)

土砂災害警戒区域

土石流

渓流に貯まった土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流される現象を「土石流」という。谷を猛スピードで流れ下るので、家ごと流される可能性がある。がけ崩れ以上に影響範囲が広い。

指定緊急避難場所への避難を推奨する。最低でも谷から離れ高台に避難することが必要。

